

# 東北子ども支援 現地報告グラフィア



被災地（大槌町）



## 物資配布



現地に届いた支援物資



ピカピカ文具セットの配布



物資配布・青空マーケット

## 子ども支援



勉強会



子どもテント



大槌小学校送迎バス



子ども虎舞お面作り



子どもピクニック



サッカー

## 写真の整理と清掃



写真整理



写真・アルバム展示会



写真・アルバム展示会

## 炊き出し



肉うどん



漬け丼、豚汁



カレー

# パレスチナでの経験を東北で活かす

## 岩手県大槌町でのキャンペーンの活動

パレスチナ子どものキャンペーンでは、3月11日の大震災と津波で壊滅的な被害を受けた岩手県での活動を開始し、すでに3ヶ月が経とうとしています。この間、インターネットなどでお知らせできる会員・支援者の皆さまには随時活動をお知らせすることができましたが、この会報「サラーム」でしか繋がっていない皆さまには、何もお知らせをすることができず、ご心配をおかけしたことと思います。大変に申し訳ございません。今号ではあらためて、現在の活動、特に岩手県での「東北子ども支援」についてご報告をいたします。

### パレスチナと東北

当会が中東での活動を開始してから25年になります。今年2011年は、ガザでの新規の農業事業を中心に、これまで以上にパレスチナのコミュニティに活動を広げ、また孤立しがちな地域と人々に焦点を当てた活動を予定していましたが、ところがこの農業事業を開始したばかりの3月11日に東日本大震災が発生しました。

地震発生当初は、これまで大規模な災害救援に取り組んだことが無い当会に何が出来るかと大変に悩みましたが、パレスチナでの支援活動の経験をぜひ日本でも役立てたいと3月24日から活動を開始するに至りました。当会は2年前のガザ侵攻に対する支援活動から「ジャブンプラットフォーム（JPF）」に加盟していますが、JPFには災害救援の経験豊富なNGO団体がたくさんおられ、その活動も参考にさせてもらうことができました。

### 岩手県大槌（おおつち）町

3月後半の時期は、まだ被災地の状況についての情報も断片的で、とりわけ岩手県への支援の遅れが心配されていました。そこで、同じくJPFにも加盟する通信系のNGOであるBHNさんとのつながりから岩手県の遠野市を拠点に、沿岸部での活動を開始することになりました。岩手県の沿岸部被災地を南から上がってきた当会の先遣チームは、陸前高田

の被災の大きさに呆然としつつも、規模は小さいものの津波に加えて火災によって焦土と化した大槌町の惨状と、この町には支援活動がほとんどないことにショックを受けました。そして、3月25日から大槌町の避難所を回って自分たちに何が出来るかを考え始め、翌日から城山体育館避難所での「子どもスペース」作りを開始しました。

大槌町は人口約12000人。漁業や養殖、それに隣の釜石市などに働きに行く人たちが多く暮らしていました。三陸は断崖が海に迫っていると、平野が少なく、海岸線のすぐそばまで家や商店が立ち並んでいました。津波はこの町の中心地すべてを流し、大槌川と小釜川という二つの川を上流まで逆流。JR山田線の鉄橋や線路も引き裂かれ、町は面影を残していません。浸水率は町の面積の50%以上、亡くなった方772人、行方不明の方952人（いずれも5月末）、被災者は8000人以上です。

### 津波で町がなくなった

私たちが最初に入った「城山体育館避難所」はかつての城跡にあって、津波が押し寄せた大槌町中心地の住民多数が最初に逃げてきた避難所です。ずぶぬれになった子どもや大人を暖めるために体育館の暗幕や舞台のカーテンは全部切り取られました。大槌では津波の直後に大きな火災が発生。炎が城山避難所まで迫り、自

衛隊が上空から水を投下するなか、人々は生きた心地がせず一晚を過ごしたと聞きました。ふもとの大槌小学校では、地震直後に先生たちが子どもを連れて城山まで逃れましたが、子どもたちは翌日まで親と再会できなかったそうです。この火災は大槌町の周りの山も焼き、救援部隊の到着が遅れた原因にもなりました。ガレキで道路は通ることが出来ず、多くの人々が尾根伝いに夜間歩いて奥の方に逃れたこともあったそうです。その一つ金沢地区の避難所で、子どもたちが黒板にチョークで描いた津波と火災の絵、そして「つなみで町がなくなった」という文字を見たときに私たちは衝撃を受けました。

城山体育館自体は町の災害対策本部が置かれていた中央公民館と両翼にあるために、かなり早い時期に電気は通じていましたが、高台にあるために水の出が悪く、長い間給水車が水を届けにきていました。3月末にはトイレ掃除の当番などが決められ、清潔に保つための努力が見られましたが、しばらくは水を流すことも出来ない状況でした。



今年岩手県は4月の終わりまで寒い日が続いていましたが、避難所では体育館の床に銀色の保温シートを敷いて直に眠ります。周りを歩く音と振動が直接響き、落ち着いて眠ることは難しく、また1家族が占有できるスペースはとても狭くて家族は折り重なるように横になります。人の出入りも多く落ち着かないうえに、食事も自衛隊から運ばれる味もついていない白飯のおにぎりだけのときや、菓子パン、カップめんだけのときも多く、昼ごはんが出るようになったのは5月になってからでした。

### 子どもたちとの出会い

狭い避難所でひたすら我慢してきた子どもたちは、自分たちに関心を持ってくれる誰かを待っていたのでしょうか。避難所の一角におもちゃやお菓子をもち込んだ私たちは、子どもたちとすぐ仲良しになりました。用心深い子どもたちも翌日にはみなスタッフにまわりついて離れなくなりました。その後4月の終わりに学校が始まるまで、毎日朝10時から4時まで城山に通いました。学校が始まった現在も放課後を一緒に過ごしている城山避難所の子どもたちとの関係は続いています。一見明るくてやんちゃで、ごく普通の子供たちですが、一人ひとりの経験は想像するだけでも大変で、時折の話や遊びに垣間見られます。



最近の日本の子どもたちは人間関係が淡々としていて、知らない人と親しくすることはほとんどありませんが、避難所の子どもたちの多くは

私たちにまわりついて離れず、遊び相手をするのが独占しがたり、自分に注意を向けもらうために時には手を出してくる……。

私たちを試すような言動も多かった子どもたちとの関係が落ち着くまでにはかなり時間がかかりました。

### コミュニティに受け入れてもらう

城山で活動をしながら、他の避難所も回り、ニーズ調査をしました。そこでオープンな関係が出来たのは旧金沢(かねさわ)小学校避難所と安渡(あんど)小学校避難所でした。町の中心から車で30分も山に入った金沢地区には数箇所の避難所が固まっていて、そこには町で被災した子どもたちもたくさんいました。避難所の世話人や保護者の希望もあり、ここでは補習と遊びを週3回することになり、学校が正常化するまで約1ヶ月継続しました。



漁業が盛んな大槌の中でも、安渡は漁師の街。「子どもの居場所が欲しい」という声にこたえて、校庭の一角に苦労してテントを張って活動を始めたのは4月最初でした。最初遠巻きにして様子をうかがっていた住民の人たちは、子どもたちがテントに入り浸り、毎日一緒に遊んでいる様子をずっと観察していたのでしょうか。春には吹いたことが無い大風や雨でテントが壊れそうになると、朝早くから自主的に保守管理をしてくれるようになりました。どの地区でも住民との信頼関係を感じて活動していますが、特に荒削りではあるけれども熱い心を持った安渡のコミュニティ

で、私たちは受け入れられ信頼されていることを実感しています。岩手県は、私たちにとっては中東以上に知らない土地でした。「よそ者」である私たちに何が出来るのかと、常に考えながら活動してきたなかで、コミュニティの方たちに受け入れられ、支えられ、時には守られて活動できていることを実感して喜びと感謝の念を禁じえません。

### 炊き出し

私たちが大槌の人たちに溶け込むことが早くできた理由はいくつかあります。第1は物資の調達です。「ジャパンプラットフォーム」とその協力企業、また日本ルーテル福音教会や生協パルシステム、その他からのご協力で多くの物資をいただくことが出来、それを大槌町に入れることが出来たからです。避難所の住民全体に行きわたるような量の物資を搬入・配布することが出来ています。大槌町では救援物資は自衛隊が管理する町の倉庫で一括管理しています。私たちは物資を大きく2種類に分け、量の多いもの保存の利くものは町の倉庫に入れて、自衛隊が避難所に届ける物資の一部として活用してもらっています。一方、数が少なかったり生鮮食料品などの保存が利かないものは、自分たちで管理し必要とされている場所に直接配布しています。



第2に、各避難所での暖かい食事提供(炊き出し)です。大槌町ではかなり初期の段階から、米飯だけは自衛隊や遠野市から提供を受けるものの、

作っていました。十分な設備が無いなかで、200人300人の食事を作るのは大変なことです。特に4月までは生鮮食品がほとんど無く、缶詰やレトルトの毎日でしたから、炊き出しは、避難所の住民にとって非常に好評です。キャンペーンが自ら行うだけでなく、全国各地から様々なネットワークや人的関係で繋がったグループもお招きして行っている炊き出しの数はどんどん増えていて、スタッフも手際よくこなせるようになって来ました。特に好評なのは、肉や魚が豊富なメニューです。漬け丼、ジンギスカン、ハンバーグ、鮭の「ちゃんちゃん焼き」などは大好評です。「食べ物」が結ぶ関係はとても強力だということも実感しました。

#### 写真の整理と清掃

地元の人が私たちの名前を良く知っているのは、実は写真の活動によります。大槌では3月の終わりから被災地の搜索とガレキの片付けが本格化しました。毎日大勢の自衛隊が手作業で行ってきましたが、彼らが現場から大量の写真や個人の所有物を私たちのところに届けてくれるようになってきました。城山体育館の隅々に放置されていた写真やアルバムを見て、私たちが汚れを落とし、乾かし、きれいになったものを展示し始めたことがきっかけでした。



中東で長年活動をしていると、パレスチナ人もユダヤ人も、戦争・収容所・避難生活などのなかで家財だけでなく、写真など過去の一切を失っていることを知って悲しくなります。

大槌で最初に写真を目にしたとき、そのことがすぐ頭に浮かびました。避難所の人も町役場もまだそれどころではなく、誰も関心を持っていなかったので、文字通り勝手に作業を始めました。それを見ていた避難所の人たちからポツリポツリと協力してくださるようになりました。忍耐の要る汚れ作業です。「これは自分の仕事だ」と思って関わってくれる人の数はそれほど多くありませんが、Mさんは2ヶ月以上ずっと毎日従事してくれています。



これまでに届いている写真やアルバムの数は膨大です。アルバムだけでも数千冊、写真となれば何十万枚もあります。しかもほとんどが海水とヘドロで汚れ、そろそろカビも生えてきている状態です。その置き場所、作業場所、展示場所の確保などで、連日町役場や教育委員会などと交渉をし、副町長さん以下多くの町役場の人たちとも顔なじみになりました。いままも普段開いている小さな展示場にはたくさんの方が訪れ、ご自分や家族の写真を探し持って帰られます。今回の震災で犠牲となった方の多くは、家も流されていますので手元に写真がなく、ちょうど翌日のお葬式の写真になったり、「49日にまだ遺体が見つからない孫の写真が見つかった」というお話もあります。見つかった喜びと親しい人を失った悲しみがない交ぜになった場所です。

#### 仮設住宅に向けて

6月に入って、大槌町では仮設住宅の建設が進んでいます。これまで

の避難所の生活から、町のいたるところに散らばった仮設住宅への移転が今後進む中で、私たちは新たな支援を始めました。仮設住宅には家電製品や什器がある程度準備されていますが、収納家具はなにもありません。そこで、レンジ台や下駄箱などが必要です。被災を免れた地元の会社と共同でこうした簡単な収納家具を作ることを進めています。地場産業の力を借りながら、職を失った被災者の方たちを雇用して作業してもらうためです。2,100戸の仮設住宅すべてにこの収納を入れることを目指して、現在、新しい大規模なプロジェクトを始めています。また、仮設住宅に入った人々が孤立しないように、仮設住宅周辺でカフェを開店しようという地元のグループにも協力する予定です。

たくさんの方々に支えられて

最後に、現場で活動しているメンバーを少し紹介させてください。現在、毎日大体15人から20人が遠野市で共同生活をしながら大槌町に通っています。遠野と大槌の間は約60キロ。笛吹峠という急な山道を通っても片道1時間以上かかります。その多くは今回の東北支援で、自ら現場に入ってきてくれた20代30代の若者です。パレスチナ子どものキャンペーンは大きな団体ではないので、元々のスタッフはそれほど多くありません。また以前からのボランティアの方々にも短期では現場に入らせていただいています。主力は、最近かわりを持った人たちです。ホームページを見て応募してきた人たち、3月に任期が終わって帰国した青年海外協力隊、エジプトを始め混乱する中東から一時帰国者……。ブラジルやシンガポールなど海外出身者。また大槌町で知り合ったボランティアの方たちもたくさんいます。



遠野市と遠野の NPOにも本当にお世話になっています。拠点場所の確保、倉庫の確保のほか、遠野市からのボランティア派遣や物資の調達でいつも頼りにしています。ほかにもこれまで様々な現場で活動してきた経験豊かな全国からの災害ボランティアの人たち。5月の連休に手弁当で集まってくれた多くの皆さん。そして多くの会員支援者の方々に見守られていることを感じています。

お名前をあげることが出来ないほどたくさんの方たちの熱意と献身と協力のおかげで活動が続いていることをこの場をお借りして報告し感謝いたします。皆さま本当にありがとうございます。

なお現在の大槌町での支援活動は秋で一旦終了予定です。しかし、厳しい冬を子どもたちが楽しく過ごせるよう、冬休みにも短期的な活動を計画しています。

今後とも温かいご支援ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。（事務局長 田中好子）



## Special Thanks

大槌町住民の皆さま、大槌町役場、大槌町災害ボランティアセンター、遠野市、遠野まごころネット、ジャパンプラットフォーム、日本ルーテル福音教会、アーユス仏教国際協力ネットワーク、生活協同組合パルシステム、国際協力 NGO センター (JANIC) ほか多くの個人、団体、企業の皆さまに、この場をお借りして特にお礼を申し上げます。

## パレスチナでの事業は順調に継続中

「パレスチナの方はどうなっているの??」と、ご心配いただいている方もたくさんおられると思います。ご安心ください。当会の中東での支援事業は東北支援とは別にこれまでどおり継続しています。

ガザでは、3月から新規農業研修事業が始まりました。新卒の農業技術者の研修と農家の研修も始まり、研修施設のグリーンハウスの工事も進んでいます。エルサレム駐在員のほか、日本からも農業専門家がガザに滞在して現地の NGO とともにこの事業を担当しています。

また、アトファルナろう学校、ナワール子どもセンターの運営支援も続けています。アトファルナでもナワールでも子どもたちが、東北の震災の直後から大変に心配し、スタッフの中には日本にボランティアに来たいと考えている人もたくさんいます。ヨルダン川西岸での子育て支援事業は3年度のプログラムを終了し、秋以降の新展開を検討中です。

一方で、レバノンでも補習クラス、子ども歯科、そしてパレスチナ刺繍の事業は継続しています。4月には日本から専門家が現地へ赴き、補習指導員やソーシャルワーカーの心理研修も実施しました。



農家研修に参加しているガザの人たち



レバノンの補習クラス

## パレスチナからの応援ありがとう

- パレスチナからのエール -
- ガザからもレバノンからも
- 「日本への連帯と応援」の思いが
- たくさん届いています。



## 報告会「岩手県大槌町での子ども支援活動」のご案内

パレスチナ子どものキャンペーンは、3月11日の大震災と津波のあと、大きな被害を受けた岩手県の大槌町にて「東北子ども支援」の活動を継続しています。

4ヶ月目に入った活動の報告会を開催します。現地で活動しているスタッフ、ボランティアからの報告です。皆さまのご来場をお待ちしております。

### 報告会「岩手県大槌町での子ども支援活動」

日時：2011年6月26日(日) 14時～17時

会場：中央大学駿河台記念館 610号室

東京都千代田区神田駿河台 3-11-5

( JR中央・総武線 御茶ノ水駅下車、徒歩3分 )

\* 予約は不要です。

\* 当日、13時30分より会場にて受付を開始します。

\* 当日11時～13時は、当会の会員総会です。

会員の方々には別途ご案内を差し上げます。

東北子ども支援ブログ：(報告会のご案内)

<http://ameba.jp/ccp-tohoku/entry-10898674751.html>

お問い合わせ先(東北子ども支援専用アドレス)

[tohoku@ccp-ngo.jp](mailto:tohoku@ccp-ngo.jp)



## パレスチナ子どものキャンペーンのご案内

パレスチナ子どものキャンペーンは

1986年に活動を開始した市民のNGOです。国籍や宗教、民族にとらわれず、パレスチナと中東地域の平和を願い、そこに生きる子どもたちが希望を持って成長できるように、教育・保健・福祉分野での支援と人権擁護を進めています。

会員になってキャンペーンの活動を支援してください

- ・会費(年会費): 4,000円、6,000円、10,000円(ご都合にあわせて、金額をお決めいただきます)
- ・年に4回の会報「サラーム」や随時のお知らせなどをお送りします。詳しくはお問い合わせ下さい。

寄付をお願いします: パレスチナ子どものキャンペーンは税金の控除を受けられる認定NPO法人です。

寄付・募金を常時受付しております。下記の口座にお振込をお願いいたします。

郵便振替口座 [ 00160-7-177367 ] / みずほ銀行 高田馬場支店 [ 普通 8030448 ]

銀行送金の場合は、領収書をお出しするためにご住所とお名前をメールやファックスなどでお知らせください。会費のお振込も上記の口座をご利用下さい。

クレジットカードでもご寄付いただけます。詳しくはホームページ <http://ccp-ngo.jp/> をご覧下さい。

特定非営利活動法人 **パレスチナ子どものキャンペーン**

〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-5アビタメジロ603 / Tel 03-3953-1393 / Fax 03-3953-1394

Eメール [ccp@bdmbn.or.jp](mailto:ccp@bdmbn.or.jp) / ホームページ <http://ccp-ngo.jp/>

郵便振替口座 00160-7-177367 / みずほ銀行 高田馬場支店 普通 8030448